

I 研究主題

「ふるさと清武を語ることができる児童生徒の育成」
～清武ならではの教育素材を取り入れた授業づくりを通して～

II 主題設定の理由

近年、時代が急激に変化し、高度情報化、国際化、少子高齢化等が進む一方、地域社会において人と人との関わりが希薄になる傾向にあり、郷土の伝統や文化が忘れ去られようとしている。また、物の豊かさの中で、価値観の多様化、規範意識の欠如、家庭・地域の教育力の低下等が指摘され、学校教育に期待される役割は、ますます大きなものとなっている。

このような状況の中、教育基本法の教育の目標において「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」が挙げられているように、郷土の伝統文化や自然などについて学習することの大切さが謳われている。学校教育においては「自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決できる力」や「自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性」、「たくましく生きるための健康と体力」などの生きる力を育むことが求められている。これらの課題をふまえると、今後、清武町の児童生徒に生きる力を育てていくにあたって郷土である清武町を愛し、大切にしようとする力がとても重要になってくる。

以上のことから、本研究センターでは平成20年度より、「清武ならではの教育素材の収集・精選」「年間指導計画の作成」「収集した素材を元にした授業実践」に取り組んだ。その成果と課題として次の点が挙げられた。

<成果>

- 主題にせまるための教育素材の発掘
- 教育素材の年間指導計画への位置付け
- 研究授業を通じた指導方法の検証

<課題>

- 清武ならではの教育素材を活用した授業内容の充実
- 指導計画の修正

そこで今年度も昨年度の研究を継続し、残された課題の解決をめざし、「清武ならではの教育素材の見直し」「素材のよさを生かした授業実践・検証」について研究に取り組んでいくことにした。

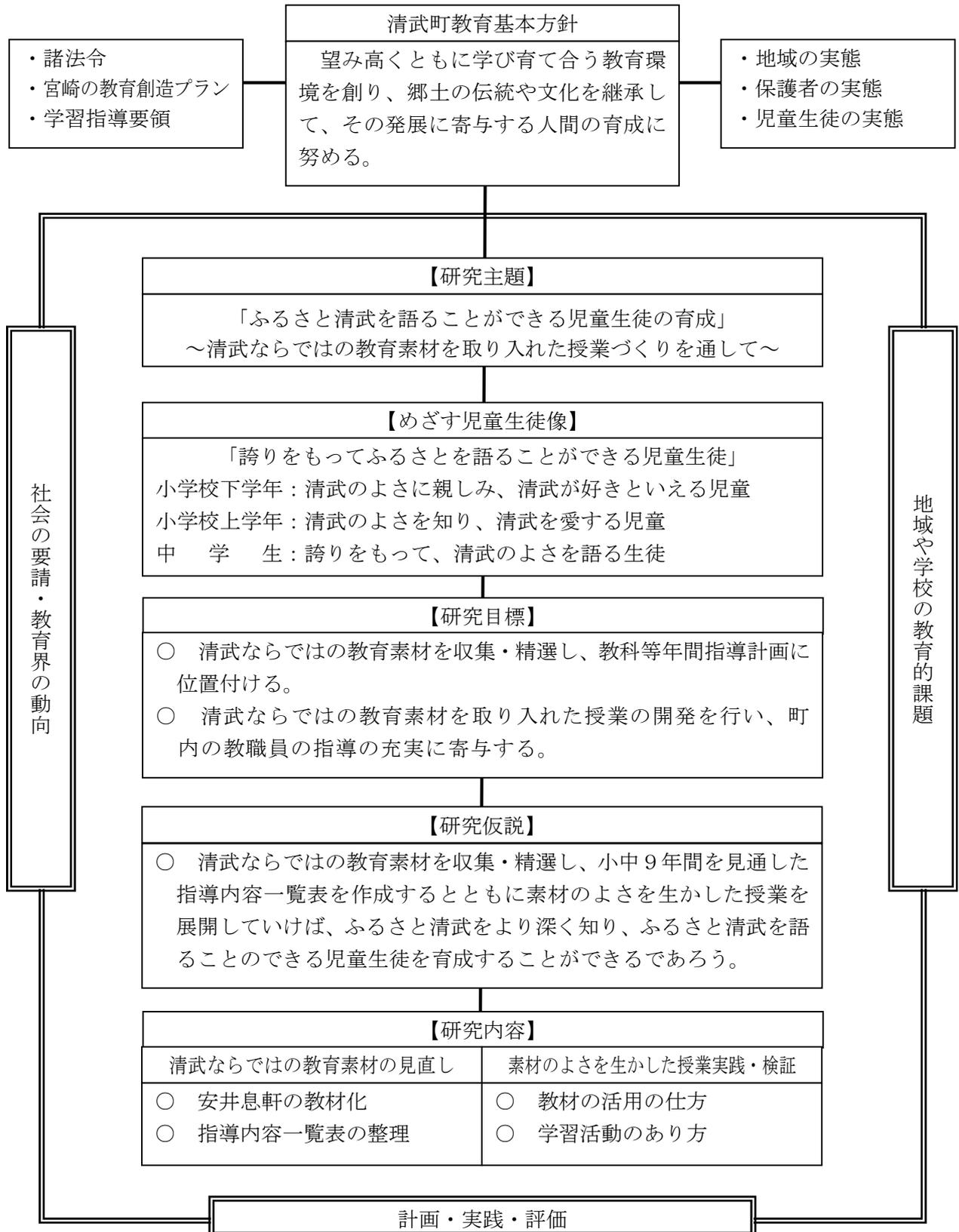
III 研究目標

- 清武ならではの教育素材を収集・精選し、教科等年間指導計画に位置付ける。
- 清武ならではの教育素材を取り入れた授業の開発を行い、町内の教職員の指導の充実に寄与する。

IV 研究仮説

- 清武ならではの教育素材を収集・精選し、小中9年間を見通した指導内容一覧表を作成するとともに素材のよさを生かした授業を展開していけば、ふるさと清武をより深く知り、ふるさと清武を語ることのできる児童生徒を育成することができるであろう。

V 研究構想



VI 研究組織



Ⅶ 研究内容

1 教材開発班の取組

(1) 清武ならではの教育素材の見直し

ア 安井息軒の教材化

清武町には、自慢すべきたくさんの方の教育素材がある。なかでも、幕末の儒学者「安井息軒」については、生誕の地ということもあり、地元でも広く顕彰されている。しかし、アンケートの結果をみると、安井息軒の名前は知っているが、業績まで理解している児童生徒は少ないことが分かった。

そこで、安井息軒を系統的に学ぶことにより、めざす児童生徒像に迫れるのではないかと考えた。安井息軒の教材化については、児童生徒の発達段階を考慮し、小学校下学年では、「息軒先生に親しみをもつ」、小学校上学年では、「息軒先生について知る」、中学校では、「息軒先生に誇りをもつ」というように段階的にねらいを設定した。また、新しく指導の時間を増設するのではなく、これまで行っている教科、道徳、特別活動で指導ができるように配慮した。

以下は、安井息軒について、いつ何を学ぶのかを系統立てた一覧表である。

【小中9年間を通して指導する「安井息軒」の指導内容一覧】

段階	学年	安井息軒
親しみをもつ	小1	生活科「いちねんせいになったよ」 ○ 銅像の名前を知る。
	小2	図工科「いっぱい ゆめいっぱい」 ○ 安井息軒の絵を描く。
	小3	国語科（書写）「半九」 ○ 毛筆で書く。
知る	小4	社会科「きょうどにつたわる願い」 ○ 安井息軒の功績を知る。
	小5	道徳「希望をすてずに」 ○ 逆境に負けない精神を学ぶ。
	小6	学級活動「目標をもって」 ○ 三計の教えについて考える。
誇りをもつ	中1	道徳「郷土を愛する心」 ○ 郷土の発展に貢献する姿勢を学ぶ。
	中2	道徳「理想の実現」 ○ 安井息軒の生き方に学ぶ。
	中3	国語科「安井夫人」 ○ 安井息軒を支えた人について学ぶ。



【 安井息軒 像 】

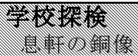
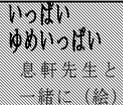
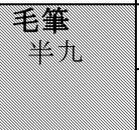
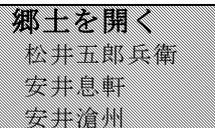
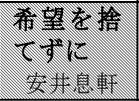
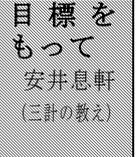
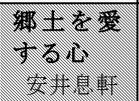
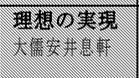
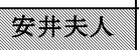
イ ふるさと目標の設定

昨年度は、「指導内容一覧表」をもとに各時間の指導例を示した指導計画案を作成した。このことにより、町内のどの小中学校でも同じような指導を行うことができるようになった。一方、めざす児童生徒像にせまるための指導の立場が明確ではなかった。そこで、今年度、清武ならではの教育素材の教材化にあたっては、指導の立場を明確にするため、「ふるさと目標」を位置付けることにした。

ウ 指導内容一覧表の整理

昨年度作成した指導内容一覧表は、人・もの・事例という項目に分けて作成した。しかし、授業を実践していく中で、項目ごとに分けた指導内容一覧表を教科別に作成した方が利用しやすいことが分かり、教科別に整理した。以下は、整理を行った指導内容一覧表である。

【指導内容一覧表：教科別】 ※ : 安井息軒に関する内容

		国語	社会	理科	図工	生活	道徳	学活
小学校	1年					 学校探検 息軒の銅像		
	2年				 いっばい ゆめいっばい 息軒先生と 一緒に(絵)	町探検 船引神社 の大楠		
	3年	 毛筆 半九	農家の仕事 日向夏 暮らしを守る 清武川の大洪水		スケッチ 船引神 社の大 楠			
	4年		 郷土を開く 松井五郎兵衛 安井息軒 安井滄州					
			昔の暮らし 安井息軒旧宅 黒北発電所					
			ふるさと歴史マッ プ 神楽 船引・今泉・中野神社 白太鼓踊り					
	5年	短歌俳句 安井滄州						 希望を捨 てずに 安井息軒
6年		歴史上の人物 川越 進						 目標を もって 安井息軒 (三計の教え)
中学校	1年		歴史上の人物 稲津掃部助重政 伊東祐堯	地層 清武上 猪ノ原 遺跡			 郷土を愛 する心 安井息軒	
			歴史 清武城 清武上猪ノ原遺跡 飢肥街道					
	2年	平家物語 中の清武	歴史上の人物 川越 進					 理想の実現 大備安井息軒
		歴史 黒北発電所						
3年	 安井夫人							

2 授業実践班の取組

(1) 授業の基本的な考え方

授業を行うにあたっては清武ならではの教育素材を取り入れながら、教科・領域のねらいを達成するだけでなく、ふるさとに対する児童生徒の関心を高められるような授業をめざした。

そこで、授業実践班では、授業仮説を立てて、「児童生徒に気づかせたい清武のよさ」や「めざす授業の姿」を設定し、検証を行った。

ア 授業仮説

清武ならではの教育素材を取り入れる際に、清武のよさを見つけたり、ふれさせたりする手立てを工夫すれば、ふるさとに対する児童生徒の意識を高めることができるであろう。

イ 児童生徒に気づかせたい清武のよさ

小学生から中学生までの学習を通して、「児童生徒に気づかせたい清武のよさ」を次のようにとらえている。

- 松井五郎兵衛や安井息軒など、地域や国のために貢献してきた先人がいる。
- 歴史上の出来事の中で、清武が舞台となった出来事もある。
- 地域には、昔から残っている文化や行事がある。
- パパイアや日向夏みかんなど暖かな気候を利用した農産物も生産されている。

教科・領域のねらいにせまりながら、自分達が住む清武について、多くのよさを見つけたり、ふれさせたりする場を設け、ふるさとを見つめ直す目を育てたい。

ウ めざす授業の姿

- 児童生徒が自ら意欲をもって、調べたり、表現したりする活動の場を設けている。
- 清武のよさにふれる教育素材を効果的に提示している。
- 清武のよさに気づかせる発問の工夫を行っている。

今年度は、この3点を重点的に意識して授業実践に取り組んだ。

(2) 小学校における授業実践

ア 第4学年の実践（社会科「きょうどにつたわる願い」）

(ア) 授業の概要

本単元は、学習指導要領の内容（5）を受けて構成されている。清武町の社会科副読本では、昨年度清武町教育研修センターが収集・精選した清武ならではの教育素材でもある「松井五郎兵衛」と「安井息軒」を取り扱う計画となっている。

1学期に行ったアンケートの結果では、日常ふれることの多い、「安井息軒」については、全員が知っていると答えた。しかし、その功績を知る児童はほとんどなく、「松井五郎兵衛」については、名前さえ知らないと答えた児童が大半を占めた。

そこで本単元の指導にあたっては、先人が郷土のためにどのような働きをしたかについて調べる活動を取り入れ、今の生活が先人の働きの上に成り立っていることに気づかせるようにした。その際、二期作等の言葉を教えたり、歴史資料館と連携を行ったりすることによって調べ学習を円滑に進められるように支援を行った。

本時では、「安井息軒」の取組が人々の暮らしの向上につながったことを理解させるために、小グループで考えを伝えあう場の設定をしたり、意図的な発問により考えを深めるようにした。

(1) 授業の実際

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	児童の活動の様子
つ か む 6 分	<p>1 安井息軒についての前時までの学習内容を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 息軒先生が父と一緒に学問を教えていた清武の塾名は何か。 ○ 食料不足に備えて、何を広めようとしたか。 ○ 天然痘予防のために取り組んだことは何だったか。 <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>息軒先生が行った二期作や種痘は、人々の暮らしにどのようなえいきょうをあたえたか考えてみよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 簡単な質問形式で答えさせながら思い出させると同時に本時の学習への関心をもたせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童はよく知っており、多くの児童が積極的に挙手して答えた。 ○ 本時の学習の見通しをもつことができ、自分の考えを記入したワークシートを各自準備し、話し合いに備えていた。
し ら べ る 15 分	<p>3 グループで考えを出し合っ てまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><予想される児童の考え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 息軒先生の働きによって、人々は死なずにすんだ。 ・ 息軒先生の働きによって、村がほろばずにすんだ。 ・ 息軒先生によって、みんな幸せになった。 ・ 食料不足にならずにすんだ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時にまとめた自分の考えを出し合わせる。 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ずつ自分の考えを発表した。 ○ 互いの意見をよく聞き合い、協力してまとめていた。 ○ 意見を出し合う中でも、考えの広がりや深まりが感じられた。
ふ か め る 19 分	<p>4 グループごとに発表したり、発表内容について考えた りする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 息軒先生の働きによって人々の暮らしはどのようになっ ていったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめた考えを、画用紙に書いて、理由もそえて発表させる。 ○ 質問や意見も出させてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班ごとに発表を行った。 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>

	<p>○ もし、息軒先生がいなかったらどうなっていたらう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・人々は病気で死んでいた。 ・村がほろんでいたかもしれない。 ・病気が広がって、国中が大変なことになっていたかも。 ・先祖も死んで、自分達が生まれなかったかもしれない。 </div>	<p>○ 息軒がいなかった時を想定して考させることによって、功績の偉大さに気づかせる。</p> <p>○ 安井息軒の功績の裏には、熱心な研究があったことにもふれる。</p>	<p>○ 各班の意見を聞き合った後に、全体で息軒の功績について考えた。</p> <p>○ 今の生活と結びつけて考える児童も多かった。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・今の生活にも影響している。 ・村の人たちは感謝しただろう。 ・二期作がなければ村はなくなっていたかもしれない。 ・息軒先生のおかげで、今自分たちがここにいるのだと思う。 </div>
<p>ま と め る 5 分</p>	<p>5 本時のまとめをして、学習をふり返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>息軒先生の働きによって、人々のくらしが豊かになった。</p> </div>	<p>○ これまでの学習をふり返って安井息軒の取組に対する考えをまとめさせる。</p> <p>○ まとめの言葉については、児童からの言葉を生かしていく。</p>	<p>○ 各班の意見をもとに本時のまとめをした。</p> <p>○ 学習を振り返り、考えたことなどをカードに記入した。</p> 

(ウ) 成果と課題

- 調べる視点を明確にするとともに、歴史館と連携して資料を準備したことで、児童は功績を詳しくまとめていた。このことは「安井息軒」に対する関心を高め、理解を深める上で有効であった。
- 小グループでの話し合いの場を設定したことで、児童が自ら家庭で調べてくるなど意欲的に取り組み、自分の考えをもって主体的に発表する姿が見られた。また、意見を聞き合うことで「安井息軒」についてより深く知ることができた。
- 班ごとの意見をしっかりと聞くための支援や、「もし、息軒先生がいなかったら」という発問による「安井息軒」の功績の大きさに気づかせるための手立ては、児童の考えを広げる上で有効であり、今の生活と結びつけた意見につながった。
- 「調べる」「まとめる」などの活動には時間を要する。ねらいに沿ってさらに内容を精選し、学習計画を見直すことで、無理のない時数で実践しやすいものにする必要がある。
- 安井息軒の郷土への貢献を知る際に、「二期作」や「種痘」など4年生には難しい言葉を理解させる必要がある。そのため、調べる段階で、教師が分かりやすく説明できる資料を用意する必要がある。

(3) 中学校における授業実践

ア 第1学年の実践（社会科「身近な地域の歴史(清武城と清武の戦国時代)」）

(ア) 授業の概要

昨年度、清武町教育研究センターが「ふるさと清武を語ることができる児童生徒の育成」をめざして、清武ならではの教育素材を取り入れた授業づくりのために、人・もの・事例の項目ごとに教育素材を収集・精選した。その収集・精選された清武町の人・もの・事例の各項目についてアンケートを行った。以下に示すものがそのアンケート結果の一部である。

	知らない	知っている	少し説明できる
やすいそっけん 安井息軒	0%	68%	32%
清武城	81%	16%	3%
いとすけたか 伊東祐堯	89%	11%	0%
いなづかもんのすけしげまさ 稲津掃部助重政	89%	11%	0%

清武町の郷土の偉人である「安井息軒」について理解している生徒は多いが、それ以外の人・もの・事例については少ないという実態があった。

本時においては、アンケート結果から生徒の理解度が低いと思われる「清武城」「伊東祐堯」「稲津掃部助重政」を取り扱うこととした。これは、身近な場所である「清武城」でも、人々が命をかけて争い合った戦乱の歴史があったということを知ることができ、ふるさとに対する生徒の意識を高める上で有効な内容であると考えられる。そこで、「清武城」と「清武城を舞台とした歴史」について、意欲をもって真剣に考えさせるために生徒が話し合う場を設定した。また、清武のよさにふれる教育素材の提示を効果的に行うために、プレゼンテーションソフトを利用した。さらに、生徒の考えを深めさせるために、「本来、都於郡にあるはずの墓が清武にあるのはなぜか。」という発問の工夫を行った。

(イ) 授業の実際

過程	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	生徒の活動の様子
課題把握	1 写真を見て考え、気づいたことを発表する。	○ プレゼンテーションソフトで資料を提示し、興味をもたせる。	○ スクリーンを見て考えた。 
	2 「清武城」という城があったことを知り、本時の学習課題を確認する。	○ 「清武城」を舞台にした学習をすることを知らせ、興味・関心を高める。	
	清武城の歴史を探ろう。清武城にはどんな秘められた物語があるのだろうか。		

課題追究	3 清武城と伊東氏の関係について知る。	○ 清武城や伊東氏に関する基礎的な情報をつかませる。	○ ワークシートに基本的な語句を記入していった。	
	4 伊東祐堯について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・都於郡城第1代城主 ・子祐国の見送り後病死 </div>	○ 戦国大名伊東祐堯の動き、清武城に供養塔がある意味を知らせる。		
	5 清武城にあるもう一つの供養塔について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>なぜ、稲津掃部助重政とその妻である雪江の墓が清武城にあるのか。</p> </div>	○ 掃部助の情報や時代背景(関ヶ原の戦いの構図)などから、生徒の自由な発想で考えさせる。	○ 作図資料や当時の時代背景から、自分たちの考えをまとめていった。	
	6 グループで話し合い発表する。	○ 各自の考えを出し合い、まとめた意見を発表させる。		
	7 稲津掃部助重政と雪江の自害の真相について知る。	○ 清武城の悲劇と関ヶ原の戦いのつながりについて気付かせる。		
	まとめ	8 授業の振り返りを行い、人名などを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> <li style="margin-right: 10px;">・清武城 <li style="margin-right: 10px;">・伊東祐堯 <li style="margin-right: 10px;">・稲津掃部助重政 <li style="margin-right: 10px;">・雪江 <li style="margin-right: 10px;">・関ヶ原の戦い </div>	○ 本時で登場した各語句を確認させる。	
		9 今日の授業の感想を書く。		



(ウ) 成果と課題

- 教科書で扱う全国的な内容である「関ヶ原の合戦」の頃の清武を扱ったことは、戦国時代を身近に感じるという点で有効であり、「関ヶ原の合戦」の時代背景をより理解することができた。
- プレゼンテーションソフトを利用することで視覚に訴えることができ、生徒の学習意欲を高めたり、内容の理解を深めたりする上で有効だった。
- 発問の工夫を行うことにより、話し合い活動が活発になり、生徒の考えが深まった。
- 1時間の授業で取り扱う教材の量や順序、情報が多かったので、生徒たちにとって適切なものであるかを吟味して、精選する必要がある。

VIII 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- 各学年での取組に安井息軒という柱を設定したことで、9ヶ年の学習内容に系統性をもたせることができた。
- 教科の目標とは別にふるさと目標を設定したことで、指導の立場を明確にすることができた。
- 昨年度の研究を深化させながら、清武ならではの教育素材を教材化し、教師自身が郷土のよさを見つめるという視点から授業実践を行うことができた。
- 授業実践を通して、児童生徒の関心を高めることができた。また、深く知ることによってふるさとを誇りに思う気持ちが出てきている。

2 今後の課題

- 清武ならではの教育素材の教材化を図ったが、よりよいものにするために、児童生徒の発達段階を考慮しながら、さらに練り上げていく必要がある。
- 今後ふるさと学習を推進していくためには、児童生徒に清武・ふるさと・偉人等を日常的に意識させるように工夫するとともに、職員にも学ぶ機会を設定していく必要がある。
- ふるさとを語る子ども達を育成するために、清武ならではの教育素材を取り入れた授業を継続して実践していく必要がある。

○ 参考文献

- ・ 清武町教育研究センター、「平成20年度 研究のまとめ 第8集」、2009
- ・ 安井息軒百年忌祭奉賛会、「安井息軒」、1975
- ・ 清武町教育委員会、「郷土の偉人 安井息軒」、1990
- ・ 清武町・清武町教育委員会、「安井息軒 その学問の神髄と生涯」、1999
- ・ 黒江一郎著、「安井息軒」、日向文庫刊行会、1983
- ・ 佐藤一一著、「宮崎の偉人（中）」、鉾脈社、1998
- ・ 和田雅実著、「瓦全 息軒小伝」、鉾脈社、2005
- ・ 早稲田大学日本地域文化研究所、「日向の歴史と文化」、行人社、2006
- ・ 森鷗外著、「安井夫人」、青空文庫

○ 研究同人

所 長	神川 孝志 (清武町教育委員会教育長)	
副 所 長	児玉 秀樹 (清武町教育委員会教育次長)	
研究指導者	山内 敏男 (加納小学校校長)	
研究指導員	日高 啓子 (清武町教育委員会)	
研 究 員	串間 正宏 (清武小学校教諭)	柏田 清美 (加納小学校教諭)
	上園 和恵 (清武小学校教諭)	満安 辰郎 (清武中学校教諭)
	森 俊幸 (大久保小学校教諭)	齋藤 秀一 (清武中学校教諭)
	瀨砂 達洋 (加納小学校教諭)	佐藤 邦浩 (加納中学校教諭)
	園田 愛美 (加納小学校教諭)	森 英雄 (加納中学校教諭)

